

主体的・対話的で深い学びのある授業～「聞き返しのある授業」の充実～

主体的な学び

子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

- ① **まとめにつなげる適切なめあての工夫**
「まとめ」の際に「めあて」を振り返り、1時間の学習で身につけたことを確認させましょう。
- ② **予習の充実**
発達段階に応じた予習(問題を写す、自分の考えを書かせる等)の取組で、1時間の授業の見通しを持たせましょう。
- ③ **一人一人の言葉を大切にしたい授業**
つぶやきを全体に広げたり、同じ考えであっても自分の言葉で表現させたりしましょう。
- ④ **振り返りを通して学びを再確認**
発達段階に応じた振り返り(何ができたか、どのような学びがめあての達成につながったか等)で、次の学習への意欲を高めましょう。

対話的な学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

- ① **めあてに沿った考えや見通しを持つ時間の確保**
自分の考えを持って対話に臨ませましょう。「わからない」「難しい」「途中でわかった」も考えとして尊重しましょう。
- ② **他者の発言に対する自分の考えの明確化と聞き返し**
自分の考えを発言させるだけでなく、他者の発言に対して、疑問に思った点や自分とは異なる点など、自分の考えを持たせ、積極的に聞き返しができるようにしましょう。
- ③ **必要に応じた適切な対話活動**
一斉学習やペアで学習したことを確認したり、4人で課題解決したり、6人で情報交換や意見発表をしたりするなど、活動に適した学習形態を工夫して対話的な学びを充実させましょう。

深い学び

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「深い学び」が実現できているか。

- ① **思考を深める他者との交流**
自分と他者の考えの類似点や相違点などを比較したり、関連付けたり、言葉だけでは図や式等で表現したりすることで学習内容の深い理解を促しましょう。
- ② **思考の整理を促す意図的な指名**
机間指導で子どもたちの発言を把握し、意図的に指名することを通じて、子どもたちに学習の深まりを実感させましょう。
- ③ **「わかった」「できた」で育む学習意欲**
まとめや振り返り、練習問題への取り組みを通じて、子どもたちが「わかった」「できた」を実感できるようにし、次の学習活動への意欲を高めましょう。

学習集団づくり

- ① **学習規律の徹底**
話の聞き方や話し方などの授業におけるルールやチャイム着席や私語などのけじめを学校・学年で確認するとともに、子どもたちにも守るべき約束を意識させることで、学習活動を充実させましょう。
- ② **子どもを中心とした学習活動**
子どもたちの役割と責任を明確にし、子どもたちに活動の方向性や活動内容を検討させるなど、日ごろから子どもたちの主体的な活動を促しましょう。
- ③ **目標の実現に向けて協力を促す仲間づくり**
目標の実現に向けて、仲間とともにその達成状況の把握に努め、その実現に向けた新たな取組をともに模索することを通じて、力を合わせて課題に取り組む仲間づくりに努めましょう。

教師の役割

- ① **「ほめ・認める」ことで育む学習意欲**
子どもの学び方や考え方、学習態度など、学びのプロセスを具体的に「ほめ・認める」ことで、学び続ける気持ちは育みましょう。
- ② **子どもの反応を予測した教材研究**
授業のどこに、子どもたちの「つまづき」発見「気づき」「わかる」瞬間があるのかを意識して教材研究することで、学習活動の焦点化を図りましょう。
- ③ **子どもの発言をつなぐ**
授業の中心は子どもであり、教師は子どもの発言をつないだり、考えを揺さぶったりする役割を果たすことで、子どもを中心とした学習活動を実現しましょう。